

平成29年度栄養サポートチーム担当者研修会 開催要領(案)

1. 期 間 平成29年8月25日(金)～27日(日)
2. 会 場 都内予定
3. 日 程

《1日目:8月25日(金)》

時 間	講義時間 (分)	内 容	講義のねらい
8:30 ～ 9:00		受付	
9:00 ～ 9:10		オリエンテーション	
9:10 ～ 9:40	30	医療者としての職業倫理	医療者としての職業倫理について、様々な職種の観点から考察を行う。
9:40 ～ 10:10	30	栄養サポートチームの目的と意義	栄養サポートチームの歴史的背景、将来を含めて、なぜ現代の医療制度において栄養サポートチームが必要とされるのかを解説し、栄養サポートチームのあり方を解説する。
10:10 ～ 10:40	30	栄養サポートにおけるディジーズマネジメントの概念	栄養サポートチームは単に栄養サポートのためにあるのではなく、医療全体を踏まえたディジーズマネジメントの中で位置づけられていることを解説しその意義を認識することを強調する。
10:40 ～ 10:50	10	休憩	
10:50 ～ 11:40	50	栄養障害例の抽出・早期対応	入院時のスクリーニングにおいていかに的確に栄養障害事例を見出すかについての基本的事項を述べる。
11:40 ～ 12:30	50	リスクを有する患者の栄養管理計画立案に必要な個別栄養評価	栄養アセスメントは数値だけでなく、主観的情報を踏まえて行うことが大切であることを理解すると共に、この点を踏まえた栄養管理計画の立案ができるようにポイントを解説する。
12:30 ～ 13:10	40	昼食休憩(各自用意)	
13:10 ～ 14:10	60	栄養法の選択(経口栄養・経腸栄養・静脈栄養)	経口栄養法の優位性を説明すると共に、経腸あるいは経静脈栄養法を選択する基準を理解できるように説明する。またこれらの特殊な栄養法から経口摂取への復帰への支援の必要性を説く。
14:10 ～ 15:40	90	栄養管理計画の基本	栄養アセスメントに基づいて栄養法の選択、栄養剤の選択、必要エネルギー・栄養素量など栄養管理計画の基本的な立案手順を解説する。
15:40 ～ 15:50	10	休憩	
15:50 ～ 16:50	60	経腸栄養法の特徴と投与システム	経腸栄養法の必要性や腸を経由することによる種々の利点を説明すると共に、合併症などの短所を解説する。また投与に用いる機材の組み合わせ、投与経路や速度についての基本的事項を解説する。
16:50 ～ 18:20	90	経静脈栄養法の特徴(優位性・合併症を含む)	静脈栄養法の必要性や利点を説明すると共にバクテリアトランスロケーション、カテーテル感染症の危険性などの短所を解説する。末梢静脈栄養法と中心静脈栄養法それぞれの特徴と適応を解説する。

《2日目:8月26日(土)》

時 間	講義時間 (分)	内 容	講義のねらい
8:30 ～	9:00	受付	
9:00 ～	10:30	90 静脈栄養剤の基礎知識	末梢静脈栄養と中心静脈栄養に分けて、栄養剤の組成、特徴を解説する。また栄養剤の代表的な組み合わせを紹介する。
10:30 ～	10:40	10 休憩	
10:40 ～	12:10	90 経静脈栄養のプランニングとモニタリングの実際	経静脈栄養の基礎知識を得たうえで、同栄養法のプランニング（投与量・組合せ・投与経路の選択・期間など）とモニタリング（検査値・身体観察その他）および評価について学ぶ。
12:10 ～	13:00	50 昼食休憩（各自用意）	
13:00 ～	14:30	90 経静脈栄養剤の投与システムの基礎 （側管投与法・薬剤配合変化を含む）	経静脈栄養剤の投与に用いる機材の組み合わせ、投与経路や速度についての基本的事を解説する。使用栄養剤の基本的な組み合わせ・輸液栄養剤の適正な調剤法・栄養剤の側管投与法・薬剤配合変化・栄養量の変化などを解説する。
14:30 ～	15:30	60 薬剤の簡易懸濁法の実施と有用性	経腸栄養剤（経腸栄養食品）と同時に投与される薬剤の投与方法を簡易懸濁法を中心に解説し、その特徴や有用性にも触れる。
15:30 ～	15:40	10 休憩	
15:40 ～	16:30	50 経腸栄養管理のプランニングとモニタリング	経腸栄養法を採用する場合のプランニングのポイントを解説する。実施後のモニタリング項目を概説する。
16:30 ～	17:50	80 栄養療法に関する合併症の予防・発症時の対応	リフィーディングシンドローム・発熱（カテーテル感染症）・下痢・脱水・電解質異常・糖代謝異常・胃食道逆流など静脈栄養法や経腸栄養法を採用している場合に発生しやすい合併症を取り上げ、その対策のポイントを解説する。
17:50 ～	18:00	10 休憩	
18:00 ～	18:50	50 経腸栄養剤（食品）の衛生管理・適正調剤法（適正調整法）	経腸栄養剤や経腸栄養食は取扱い部署が異なっている場合が多いので、各部署における衛生管理法や衛生的な調剤（調製）方法について器具の取り扱い・施設・手順などについて必要な知識を身につける。

《3日目:8月27日(日)》

時 間	講義時間 (分)	内 容	講義のねらい
8:30 ～	9:00		受付
9:00 ～	10:00	60 経腸栄養剤(食品)の選択	経腸栄養剤(食品)は成分栄養剤、消化態栄養剤、半消化態栄養剤(食品)などに分類される。それぞれの製品の特徴を栄養素ごとに解説する。さらに近年、病態別、機能別などに特徴を持たせた製品も増えていることから、患者の状況に応じた適切な選択ができるように解説する。
10:00 ～	10:10	10	休憩
10:10 ～	10:50	40 栄養療法に関する問題点・リスクの抽出	栄養療法実施中に起こる問題点やリスクをどのように早期に発見し対策を立てるかについての基本的事項を学ぶ。
10:50 ～	11:30	40 静脈栄養法から経腸栄養法への移行	静脈栄養法からより生理的な経腸栄養法への移行について症例を用いて解説する。
11:30 ～	11:40	10	休憩
11:40 ～	12:20	40 経口摂取移行のプランニングとモニタリング	栄養管理の経過観察(モニタリング)と転帰に対する評価についてのポイントを解説する。
12:20 ～	13:00	40	昼食休憩(各自用意)
13:00 ～	13:40	40 栄養サポートチームが有効に機能するための基本的な考え方	静脈栄養、経腸栄養法のモニタリングを通じて経口摂取への移行を検討すべき内容を症例を用いて解説する。
13:40 ～	14:40	60 フードサービスとの連携	栄養サポートは複数の栄養法が併用される場合が多い。経口摂取を行う場合には個人の摂食能力や多様なメニュー展開が必要となるためフードサービスとの連携が不可欠となることから患者給食の概要を理解する。また連携の在り方や課題を検討する。
14:40 ～	15:10	30 栄養管理についての患者・家族への指導	チームが行う栄養管理に関して患者・家族が納得して栄養治療ができるように指導の在り方を述べる。
15:10 ～	15:20	10	休憩
15:20 ～	15:50	30 在宅栄養・院外施設での栄養管理法の指導	患者・家族が家庭での帰ってからの栄養管理の在り方について必要な指導内容とは何かを述べる。また院外施設への情報提供についても言及する。
15:50 ～	17:30	100 事例に学ぶ	栄養サポートチームにおいて必要な情報共有の在り方・症例検討会で提案・患者への説明などを事例報告から考察する。またヒヤリハット・危機管理などを含める。
17:30 ～	17:45	15	認定教育施設における研修ガイダンス